

学校教育目標 学びに向かう力を持ち 自他及び集団のよさを大切にして 体の健康と成長を大切にすることの育成（案）

| 重点目標 | 達成指標 | 重点的取組 | 取組指標 | 実施率 (%) | 取組状況の確認 (教職員の取組はどうだったか) (どこに課題があったか) | 達成状況の確認 (子どもの姿容の状況) (達成指標にどれだけ近づいたか) | 検証 (取組状況・達成状況から考えられる取組の効果) (改善策を練り上げるための根拠・理由) | 次期に向けた改善策 |
|---|---|---|---|--|--|--|--|-----------|
| ＜知＞ 学びに向かう力をもつ子どもの育成 | ①由布市学力調査において、低位層を30%以下にする (1, 2学期においては、国・算の単元テストにおいて、目標値に対する達成率70%以上を目指す) ②単元末の児童アンケートで、「単元のめあて」に対して全員が「授業がよくわかった」と回答する | 学校 子どもが自分なりの考えを持ち、その考えをさらに練り上げていける授業の推進 | ＜算数授業において＞ ①授業者は、子どもたち一人ひとりが自分なりの考えをしっかりとてよう工夫する | | | | 【指標の妥当性】 【取組状況から】 【達成状況から】 | |
| | | | ＜算数授業において＞ ②授業者は、子どもたち一人ひとりが、自分の考えをその後の活動をとおしてさらに強化していくことができるよう工夫する | | | | | |
| | | 阿南小学習のルール4か条の徹底 | ③学級担任は、学習のルール4か条で毎月必ずめあてを持たせ、月末に振り返りをする場を設定し、その結果に即した声かけ指導を工夫する【担任以外も、チェック結果を認識し、各自の持ち分での指導に生かす（特に姿勢）】 | | | | | |
| | | 家庭 チャレンジタイムを活用した、子どもの実態に即した国語と算数の補充学習の実施 | ④子どもに応じた問題量を用意し、取組の目安を子どもの示して取り組ませる。子どもの実態に即した支援を行い、達成感を味わわせるようにする【チャレンジタイムの指導に入った全教職員が実践する】 | | | | | |
| 地域 学校が地域人材の活用を図る学習活動に、人材として積極的に参加する | ⑤懇談と通信をとおして担任と共通理解した、子どもへの具体的な学習支援の方策を実行する【特に通信を活用して、子どものノートの紹介や学習の様子・進捗等を伝えていく】 | | | | | | | |
| ＜徳＞ 自分に自信・友だちに思いやりをもつ子どもの育成 | ①由布市Q-U調査において、非承認群を15%以下にする (満足群を70%以上に) ②活動後に実施する児童アンケートで、活動前に示した「具体的なめあて」をもとに、全員の児童が「達成した」と回答する | 学校 毎月1回の生活研の実施と、その実態把握からとらえた子どもたちの特性をふまえた全教職員による指導の推進 (子どもたちに自己肯定感・自己存在感を味わわせることを念頭に) | ①毎月生活研を実施し、子どもたちの実態と指導の方向性を共通理解し、全教職員で指導を行う【学級担任は、行事の一場面や注目場面等を想起させて、振り返りや意欲付け等を実践】【担任以外は、各自の持ち分の場面で気づいたこと等を担任へ必ず連絡する】 | | | | 【指標の妥当性】 【取組状況から】 【達成状況から】 | |
| | | | お互いのよいところを認め合う場の設定 | ②学級担任は、各学級の一日のどこかの場面で、「よいところ見つけ」を実践する【各クラスでの取組のマンネリ化を防ぐために、「どんな視点で見つけるのか」「見つけ方の視点の違い」等を教師が意図的に見せながら指導していく】 | | | | |
| | | 家庭 集団生活のきまりを大切に、落ち着いた生活の促進を図る | ③生活目標をもとにして児童会で「なかよし」「あいさつ」を核にしなが、子どもの実態に応じて柔軟に「めあて」を立てさせ、学級担任は、各学級の実態に合わせてその具体化に取り組む【各学級の具体的なめあてを全校に向けて掲示し、担任以外は持ち分の指導に生かし、毎月全校でふりかえりの場をもつ】【各学級の具体的なめあてには、できるだけ、友だちの頑張りの認め・言葉遣いを入れる】 | | | | | |
| | | 地域 基本的な生活習慣の定着を図る (主に、) | ④PTAが主体となって、学期に1回各家庭で「生活リズムがんばり表」を使って、子どもたちの生活習慣の実態把握・分析・改善すべき点の提案を行い、生活習慣の見直しを促進する | | | | | |
| ＜体＞ 自分の体の健康と成長を大切にすることの育成 | ①「運動が楽しい」と感じる児童の意識を90%以上に ②生活習慣に関する児童・保護者アンケートの、「就寝・起床時刻」「朝食」「ゲーム機等使用の家庭の約束」で、「できている」と回答する児童・保護者の意識を80%以上に | 学校 様々な運動の基礎感覚が身に付くよう、サーキットトレーニングを全学年統一して行う | ①体育授業の始めに、サーキットトレーニングに必ず取り組ませる | | | | 【指標の妥当性】 【取組状況から】 【達成状況から】 | |
| | | | 児童会と連携して、縦割り班を活用した体を動かす活動を実施する | ②体育主任が特別活動主任と連携して、日常の遊びに取り入れることができるような運動を、児童集会活動として計画・実施する | | | | |
| | | 家庭 子どもの体の健康と成長にとって大切なもの（基本的な生活習慣の確立、日常的な運動習慣）について、保護者に対して啓発活動を行う | ③学校から発行する通信（学校、学年、学級、保健）を活用して、「子どもの生活習慣について」「子どもの運動習慣について」「家庭での運動のすすめ」等を、時宜を得て伝えていく | | | | | |
| | | 地域 基本的な生活習慣の定着を図る (主に、) | ④PTAが主体となって、学期に1回各家庭で「生活リズムがんばり表」を使って、子どもたちの生活習慣の実態把握・分析・改善すべき点の提案を行い、生活習慣の見直しを促進する | | | | | |
| 地域 学校が企画する地域参加の教育活動に積極的に参加する（運動会等の体育的活動） | ⑤参加した教育活動について、必ず子どもたちへの声かけを行う | | | | | | | |